

子どもと絵本を楽しもう

絵本の世界を楽しんでいるうちに子どもの心にストンと落ちる不思議な力をもっている絵本。
動画とは違って自分のペースでみることができるのも魅力の一つ☆
お気に入りの絵本を見つけてみては…

こんな時に こんな絵本はいかが？

【おいしそう♡思わず食べたくなってしまおう絵本】

待ち遠しくなる食事タイム



「おべんとう」 作：小西英子 出版社：福音館書店

お弁当箱用意して、さあて何から入れようか？一番最初は炊きたてのほかほかごはん。それからあつあつのミートボールにふんわり卵焼き。忘れちゃいけないタコさんウインナー。いろいろおかずが次々と詰められて、なんともおいしそうなお弁当のできあがり！ 大人も子どもも大好きなお弁当がテーマの絵本です。出てくる食材はどれもおいしそうでつい手を伸ばしてしまいそう。お弁当ができるうれしさ、楽しさを存分に描きます。

「くだもの」 作：平山和子 出版社：福音館書店

すいか、もも、ぶどう、なし、りんごなど、日常子どもたちが食べるくだものを、まるで実物かと思わせるほど鮮やかに描いた、いわば果物の画集。



絵本からいい匂いがしてきそう♪



「しろくまちゃんのほっとけーき」

作：わかやまけん 出版社：こぐま社

しろくまちゃんがホットケーキを作ります。卵を割って、牛乳を入れて…。焼き上がったらこぐまちゃんを呼んで、二人で「おいしいね」。見開きいっぱい描かれたホットケーキの焼ける場面は、子どもたちに大人気。

お風呂タイム

【体を洗うのが楽しくなる絵本】

親子で“ごしごししゅっしゅ”と
口ずさみたくなるかも♪
心まであたたかくなれるかな♡



「もりのおふろ」 作：西村敏雄 出版社：福音館書店

森のおふろにライオンがやってきて、体を洗い始めます。そこへゾウがやってきたので、ライオンはゾウに背中を洗ってもらいます。ワニ、ブタと次々動物がやってきて、最後にやってきたのはウサギ。みんなで輪になり、前の動物の背中を流します。「ごしごししゅっしゅごしごししゅっしゅあぶくぶくぶくごしごししゅっしゅ」。お湯をザブーンとかけ合い、お風呂へドボンと入り、ゆっくりお湯につかって、極楽極楽、いい気持ち！

イヤイヤ期まっ最中

【思わず笑ってしまう…イヤイヤっ子が主役の絵本】

“自分でやりたい気持ち”に「がんばれ！」と
応援したくなっちゃう



もうぬげない

ヨシタケシンスケ

「もうぬげない」 作：ヨシタケシンスケ 出版社：ブロンズ新社

ふくがひっかかってぬげなくなって、もうどれくらいだったのかしら。このままずっとぬげなかったらどうしよう。このままおとなになるのかな。ぬげないまま、工夫しながら生きる？ ぬげない仲間をみつけて、たのしく生きる？ あれこれ考えるうち、だんだんおなかがさむくなってきて…。

「いやだ いやだ」 作：せなけいこ 出版社：福音館書店

ルルちゃんは何にでもすぐに「いやだいやだ」といいます。あんまり「いやだいやだ」と言っていたら……。お母さんも「いやだ」といって抱っこしてくれなくなりました。おやつもお日さまも、保育園にはいていく靴も、大事なくまのぬいぐるみも、みんなが「いやだ」といいます。みんなに「いやだ」といわれて、ルルちゃんは泣きべそをかいてしまいます。いやいや期の子どもといっしょに読みたいユーモラスな絵本です。

いやだいやだ



せなけいこ

疲れたなあ〜と感じた時

【大人が癒される絵本】

「いいから、いいから」の言葉に
心がほぐれて思わず笑顔に♡



「いいから いいから」 作：長谷川義史 出版社：絵本館

突然やってきたカミナリの親子。
にもかかわらず「いいからいいから」と、もてなすおじいちゃん。
カミナリにおへそをとられても「いいからいいから」のおおらかさ。
肩のちからがぬけることまちがいなし。

「ちょっとだけ」 作：瀧村有子 絵：鈴木永子 出版社：福音館書店

弟が生まれて、なっちゃんはお姉さんになりました。お母さんは赤ちゃんのお世話で忙しいので、いつもなっちゃんの要求に応じてあげるといふ訳にはいけなくなりました。そこで、なっちゃんはいろんなことを自分ひとりでやってみます。お姉さんになったからと頑張るなっちゃんですが、眠くなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたくくなります。お姉さんになったことで感じる切なさ、そしてそれを乗り越えることで成長していく子どもの姿を母親の深い愛情とともに描いています。

ちょっとだけ



瀧村有子×鈴木永子

親子でくり返し読んでみると、日常のふとしたときに絵本の場面が浮かんで来て、子どもとふたりだけの特別な瞬間を感じることができるかも♡
親子のコミュニケーションツールとしてだけではなく、ママやパパも絵本を楽しんでみてはどうでしょう。

ママやパパ自身が「絵本っていいなー、楽しいなあ」って感じられたらその気持ちはきっと子どもに伝わると思います。

